

氏名 宮地 晃平
授与した学位 博士
専攻分野の名称 医学
学位授与番号 博甲第 3794 号
学位授与の日付 平成21年3月25日
学位授与の要件 医歯学総合研究科生体制御科学専攻
(学位規則第4条第1項該当)

学位論文題目 Efficacy and Safety of the Additional Bepridil Treatment in Patients With Atrial Fibrillation Refractory to Class I Antiarrhythmic Drugs
(クラスI群抗不整脈薬に抵抗性を示す心房細動症例における、ベプリジル併用療法の効果と安全性)

論文審査委員 教授 佐野 俊二 教授 氏家 良人 准教授 横山 正尚

学位論文内容の要旨

(背景) ベプリジル (BEP) は多くのイオンチャンネルに作用し、最近では持続性心房細動 (AF) に対する有用性が報告される。しかし、I 群抗不整脈薬 (AAD) 抵抗性 AF に対する BEP の追加投与の効果についての報告は無い。

(方法) 対象は AF 症例 76 名 (発作性 49 名/持続性 27 名)。全例で I 群 AAD に抵抗性を認めた (平均 1.9 ± 0.9 種類が無効)。I 群 AAD は継続とし、BEP 50・200mg/日の追加投与を行い、その有効性を検討した。発作性 AF においては発作頻度が 10%以下の軽減、持続性 AF においては洞調律の維持をもって有効とした。

(結果) BEP の平均投与量は 134 ± 44 mg/日であった。平均 27 ± 22 ヶ月の経過観察を行い、発作性 AF においては 38/46 人 (78%)、持続性 AF においては 20/27 (74%) で有効であった。全例で重篤な副作用は認めなかった。

(結語) I 群 AAD 抵抗性 AF に対する BEP の少量追加投与は安全かつ有効である。

論文審査結果の要旨

本論文は治療抵抗性の心房細動 (AF) に対するベプリジルの追加投与の有効性を retrospective に追跡調査したものである。従来、AF に対しては I 群抗不整脈薬が投与されているが、洞調律の維持は困難であり、50%以上の症例で再発が認められる。これらの治療抵抗性の AF 症例に対し、ベプリジルの追加投与を行うと、発作性 AF においては 78%、持続性 AF においては 74%の患者において有効であり、なおかつ重篤な副作用は認められなかった。本論文はこのようにベプリジルの追加投与の有効性を証明し、貴重な知見を得たもので、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。